農薬って、使っても安全なの？

人間が化学的に作り出した食品添加物や
農薬も、使い方をまちがえれば、毒となります。
今回は、農薬について考えます。

農薬は、
科学的に調べて、
人間の害に
ならないように、
使うルールが
決められているんだ！

ルールを守って
いれば安全。
もちろん、
まわりの生き物や
環境のことも考えて
ルールを決めて
いるのよ！

1.どうして農薬を使うの？

自然界には、穀物や野菜などの作物にくっついて、
作物をダメにしてしまう虫や作物の
病気のもとになるかびなどがいます。
また、田んぼや畑に雑草がしげって、
作物に栄養が回らなくなることもあります。
農薬はそれらを退治する薬で、
作物をちゃんと育てたり、
十分な量をとるために使います。

2.農薬を使わないとどうなるの？

（キャベツの例）

農薬を使わないとどうなるか、
試してみた例です

農薬をまったく使わないで、
きれいなキャベツを一度に
たくさん作ることは
むずかしいことです。

3.安全を守るために…

一つ一つの農薬について
どのくらい食べてしまったら、どんな害があって、
どのくらいまでだったら影響がないのか、
食品安全委員会で科学者が集まって専門的に調べます。
そして、その農薬は一日あたりこのくらいまでなら
食べ物といっしょに食べてしまったとしても
体に害がないという量を決めます。
次にその結果をもとに、安全を守るには
どのくらいの量をどのように使えば
いいかというルールを、
厚生労働省や農林水産省が決めます。

4.じゃあ、野菜は食べても大丈夫？

農家の人は決められたルールを守って農薬を使い、
たくさんの野菜を作ります。
農薬を使って育てた作物も、
きちんとルールが守られていれば安全です。
こうした、たくさんの人の努力によって
野菜は安全でおいしい
みんなの毎日の
食事の材料になります。

ちょっと食休み　食べる喜び、作る喜び

いろいろなところで地域の特産物などの小さな販売所を見かけるようになりました。採れたて野菜やきのこ、山菜、珍しい地野菜など「安い」「新鮮」「味が濃い」と、訪れる人に喜ばれています。作る人の顔が見えて、どうやって作ったのか質問できるのも,安心できる理由でしょう。

農家の人にとっては、市場と違って少しの量でも持って行ける、好きな物を作って売ることができるという利点があります。もっとも、値付けや袋詰め,ラベル貼りなども作る人自身がやるなど手間も多いようですが、それも袋詰めひとつ、値段の設定ひとつで、売れ方が大きく違って成果が目に見え、何より「お客さんの嬉しい顔が見えて、やりがいがある」と言います。自分の畑で食べる分だけほそぼそと作っていた高齢者が、販売所に出すようになって、どんどん元気に働き出したという話も聞きます。

おいしくて安全な食物は、食べる人にも作る人にもうれしい。そんな喜びをしっかりと支えるためにも、食品安全委員会は、科学に基づいた公正中立なリスク評価と細やかなリスクコミュニケーションに努めていきたいと考えています。